

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

石川県かほく市

○学校名

かほく市立七塚小学校

○学校のURL

<http://www.nanatsuka-es@school.city.kahoku.ishikawa.jp>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 1 学年 1 学級、他学年 2 学級、【特別支援学級】 2 学級

【合計】 1 3 学級

○児童生徒数

【全児童数】 2 6 5 人（平成 2 5 年 1 1 月 1 日現在）

（内訳：1 年生 31 人、2 年生 38 人、3 年生 44 人、4 年生 41 人、
5 年生 52 人、6 年生 57 人、特別支援学級 2 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「自ら学び、心豊かにたくましく生きる七塚っ子の育成」

【人権教育に関する目標】

（基本目標）「自分に自信をもって、ともに楽しく活動する子」

（重点目標）「①自尊感情が高く、自分に自信をもてる子」

「②ともに活動することを楽しめる子」

○人権教育にかかる取組の全体概要

○人権尊重の視点に立った学校づくり（三部会からのアプローチ）

三部会（児童が安心して過ごせる学校・学級を目指した環境づくり、互いのよさを認め合える人間関係づくり、一人一人が大切にされる学習活動づくり）を立ち上げ、それぞれの部会から、上記の人権教育の重点目標①②を目指し、全教育活動を通じて取り組む。

○人権教育全体計画（各学年）の見直し

全教育活動を重点目標①②から見直し、行事や日々の共通実践などもすべて重点①②との関連を意識して取り組むことを共通理解する。

また、個別的な人権課題を計画的に配置し、系統的に指導できるようにする。道徳の時間においては、月ごとに共通の内容項目を設定し、全学年で一斉に指導できるようにする。石川ならではの豊かな自然や風土、伝統・文化などを題材とした「ふるさとがはぐくむ道徳いしかわ」（石川県教育委員会）を活用した授業も各学年に2～3時間配置する。

○人権教育推進に関する点検、評価アンケート

学期ごとに、児童、保護者及び教師を対象としたアンケートを実施し、その結果を分析し、取組の評価として活用し、常に修正をする。

3. 特色ある実践事例の内容

◆人権が尊重される学習活動づくりの取組

「学び合い、認め合う学習」を目指した授業づくり

(取組のねらい、目的)

「人権教育の視点」とは、本校が従来から取り組んできた生徒指導の三機能を授業の中でも活用し、「自己決定ができる場」「参加している意識がもてる場」「相手の立場に立って聞き合う場」を意識した授業づくりをすることである。「人権教育の視点」を意識した授業づくりをすることで、自己肯定感を高め、他とうまくかかわることのできる児童の育成を目指したいと考える。

(取組を始めたきっかけ)

本校の児童の実態として、以下の点が挙げられた。

◎自分の考えを進んで発表したり、友達のよい考えを認めたりすることができる児童が多い。

◎ペアやグループ学習には、楽しんで取り組める素直な児童が多い。

▲課題に対して、考えを持っていても自信がなく発表できない児童がいる。

▲自信が持てず、伝える声が小さくなることがある。

▲相手の伝えたいことが、何なのかを意識して聴くことが苦手である。

これらのことから、本校の児童には、

- ・自己肯定感を高め、自信をもって活動できるようにする。
- ・コミュニケーション能力を育てることで、他とかかわれるようにする。

の2点が重要であると考え、「人権教育の視点」を意識した授業づくりに取り組んでいくことにした。

(取組の内容)

○共通実践「ネームプレートの活用」

1. 自己決定できる場

自己決定する場で、ネームプレートを活用する。特に以下のように活用すると、自分の考えややりたいことが明確になり自信がもてるようになると考えた。



＜目的に応じた活用の工夫＞

- ・自分の考えに近い意見の所に貼る。
- ・～ができたなら貼る。
- ・選択の場面で、選んだ方に貼る。
- ・色を変えて貼ることで、自分の考えが変容したことを表現する。

2. 参加している意識がもてる場

「分からない」という意思表示も大切な自己決定であると考えて、ネームプレートを活用した。

「自信がない」「分からない」という意志を伝えることの大切さを指導し、黒板の一部に「モヤッとコーナー」を設けた。「モヤッとコーナー」にネームプレートを貼ることで「ヒントがほしい」「教えてほしい」という自己表現ができた。また、その児童に対して教えに行く、教えてもらって感謝を伝える、自分に自信を持つことができるなどのかかわりが生まれれば、全員参加の授業が可能であると考えた。このように、全員が参加しているという意識を持つことができるようネームプレートの活用の仕方を工夫し共通実践した。

3. 相手の立場に立って聞き合う場

誰がどんな考えを出したか、分かりやすいネームプレートの利点を生かし、互いのよさを認め合うことのできる授業づくりをした。



＜有効な活用の仕方＞

- ・ネームプレートを見て、友だちの考えや授業の行方が分かる。
- ・ネームプレートで、友だちの考えに賛成しているという意志を伝えることができる。
- ・ネームプレートの重なりで、認められたと実感できる。

○共通実践「ペア・グループ学習の活用」

1. ペア学習

ペア学習は、目的を明確にして授業の中に位置づけることが大切であると考えた。



<ペア学習の効果>

- ・相手に伝えることで、自分の考えを明確にすることができる。
- ・1時間の中で多くの児童に自己表現の場を保障することができる。
- ・互いに意見を述べ合うことで、聞き比べることができる。
- ・ノートを見せ合うことで、表現の仕方を学ぶことができる。
- ・相手の意見を聞き、自分の考えをさらに深めることができる。

2. グループ学習

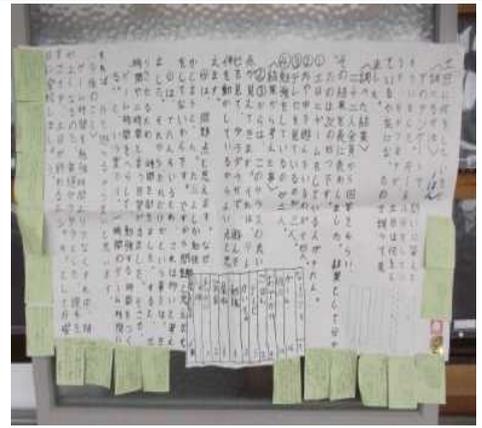
グループ学習は、以下の目的で活用すると、深まりが見られたり、児童にとって納得のいく話し合いになったりすると考え、場に応じて設定した。

- ・いろいろな考えが出たときどれかを選んだりまとめたり、深めたりする。
- ・分からないことが出たとき、互いの考えをヒントにして相談し、自分の考えを確かにする。
- ・全体では言えない考えを出し合う。



○共通実践「書く活動」

- ・年度当初に「ノートの使い方」を一斉に指導した。
- ・「フォーマット」を使って、書き方を指導した。
- ・友達のをさを認め、自分の変容を自覚する内容が「ふり返り」に書けるよう指導した。(相互評価・自己評価の工夫)
- ・他のグループからの賞賛や励まし、アドバイスを書いた付箋を貼って掲示した。
- ・心に残った友達の考えも取り入れて自分の言葉でふり返るようにした。



(取組を具現化するに当たって課題となったこと、及びそれに対する工夫)

本校の児童は、ペア・グループ学習には素直に取り組もうとするが、コミュニケーションが不得手であるため、自分の考えていることがなかなか伝わらない、聞いているというサインを送らないと不安に思う、認めてもらっているという実感がもてない・・・などの実態があった。

そこで、相手を意識した話し方・聞き方を教え、話し手と聞き手が一体となるような話し方・反応の仕方を指導することにした。その際には、学び合いかかわり合いが生まれるように、どの学級にもペア・グループでの話合いの約束(資料1)を掲示し、話合いの進め方(資料2)を確認した。

(資料1)

話合いのやくそく

- ① 相手におへそを向けます。
- ② 聞いてほしい目力光線をおくりながら話します。
- ③ ていねいな言葉
カーネーション言葉
で話します。
- ④ 「なるほど。」 「へえ。」
「すごい。」 「・・・ですね。」
などプラスの反応をします。

必ず全員が話します。

中学年

(話し合いの進め方)

- ① 今から□について話し合います。
- ② ○○さんから意見を言ってください。
(全員が一人ずつ言っ。)
- ③ ○○さんに似ている人はいませんか？
同じ考えの人も意見を言ってください。
- ④ 違う考えの人はいませんか？
意見を言ってください。
- ⑤ つけたす人はいませんか？
意見を言ってください。
- ⑥ まとめをします。
わかったことを言ってください。
友達のよかった意見を言ってください。
- ⑦ これで□を終わります。

○共通実践「話し方・聞き方の指導」

- ・児童の実態に合った「学習目標」を設定し、全クラスで取り組んだ。
- ・相手を意識した話し方「カーネーション言葉」(資料3)を指導した。
「～ですか」「～ですね」「～でしょう」
- ・受け止める聞き方、相手の言いたいことを分かってあげられる聞き方・反応の仕方を指導した。

友達につながる話し方

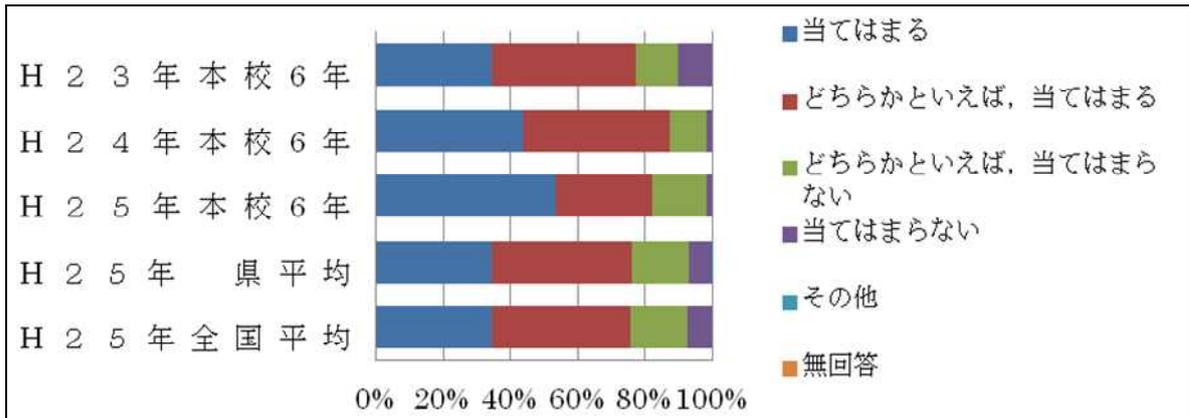
- ① はい、……だと思います。
 - ② ○○さんについて、
(同じで)……です。
 - ③ わけは、……だからです。
 - ④ ○○さんにつけたして
……です。
 - ⑤ ○○さんに質問します。
……です。
 - ⑥ ○○さんは、……という考え
です **ね**。
- どうですか。 **か**。
- カーネーション言葉**

4. 実践事例の実績、実施による効果

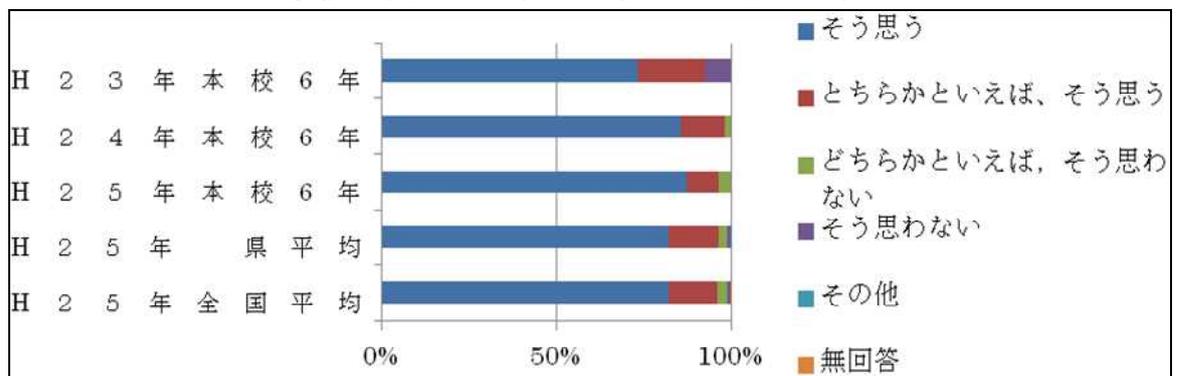
(取組の実績)

アンケート結果からも分かるように、全国学力・学習状況調査児童質問紙による「自分にはよいところがあると思いますか」「学校で友達に会うのは楽しいですか」では、23、24、25年度と徐々に肯定的な答え「当てはまる」が増えてきている。「自分の考えを発表する機会が与えられていますか」では、25年度がかなり高く、発表しているという意識が強くなってきている。

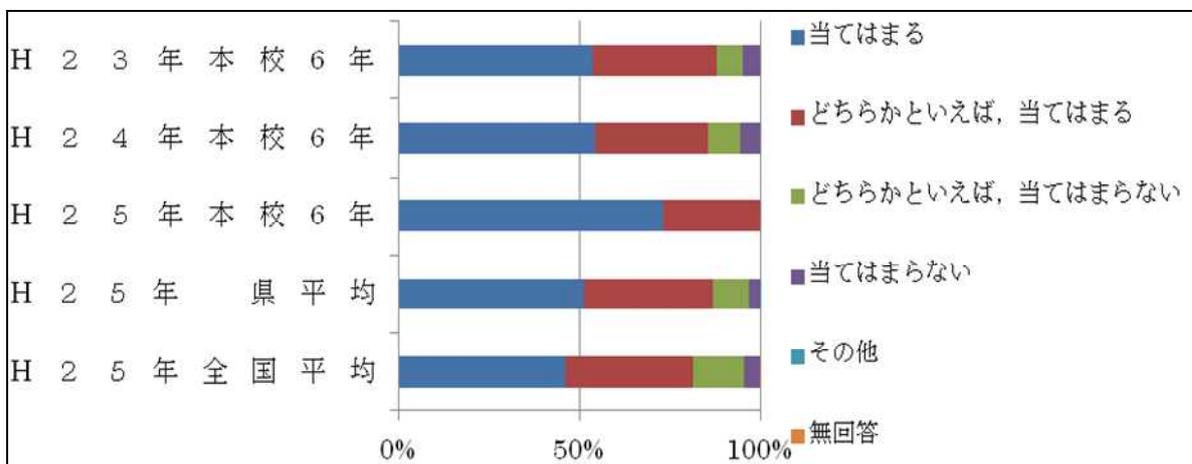
自分にはよいところがあると思いますか



学校で友達に会うのは楽しいと思いますか

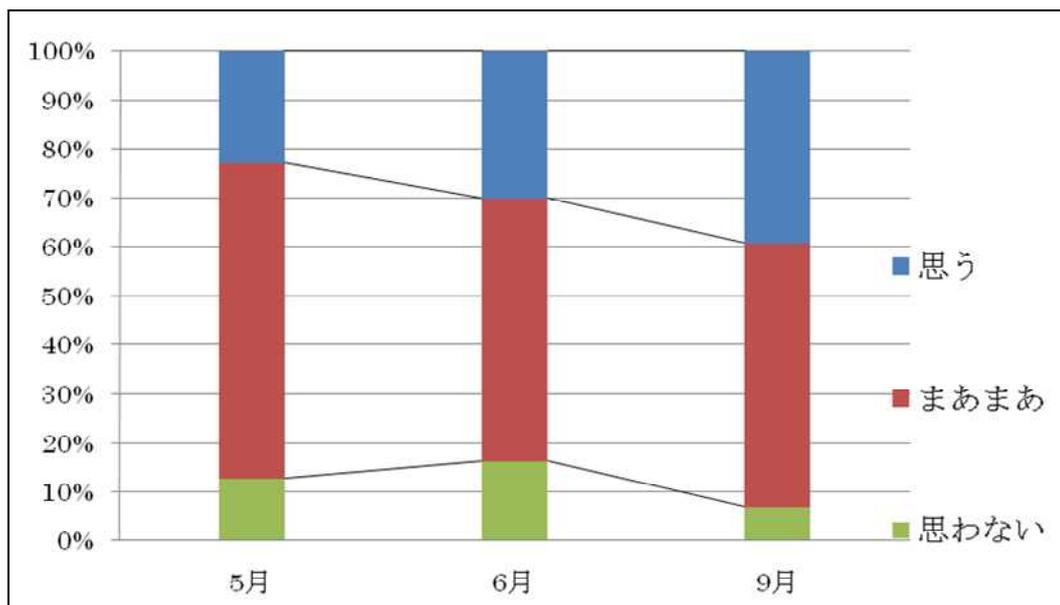


自分の考えを公表する機会が与えられていますか



本校の児童アンケート「ハートチェック」においても、今年一年間で、5月、6月、9月と徐々に「自分にはよいところがあると思う」と、自分に対して肯定的に考える児童が増えてきている。

自分にはよいところがあると思いますか

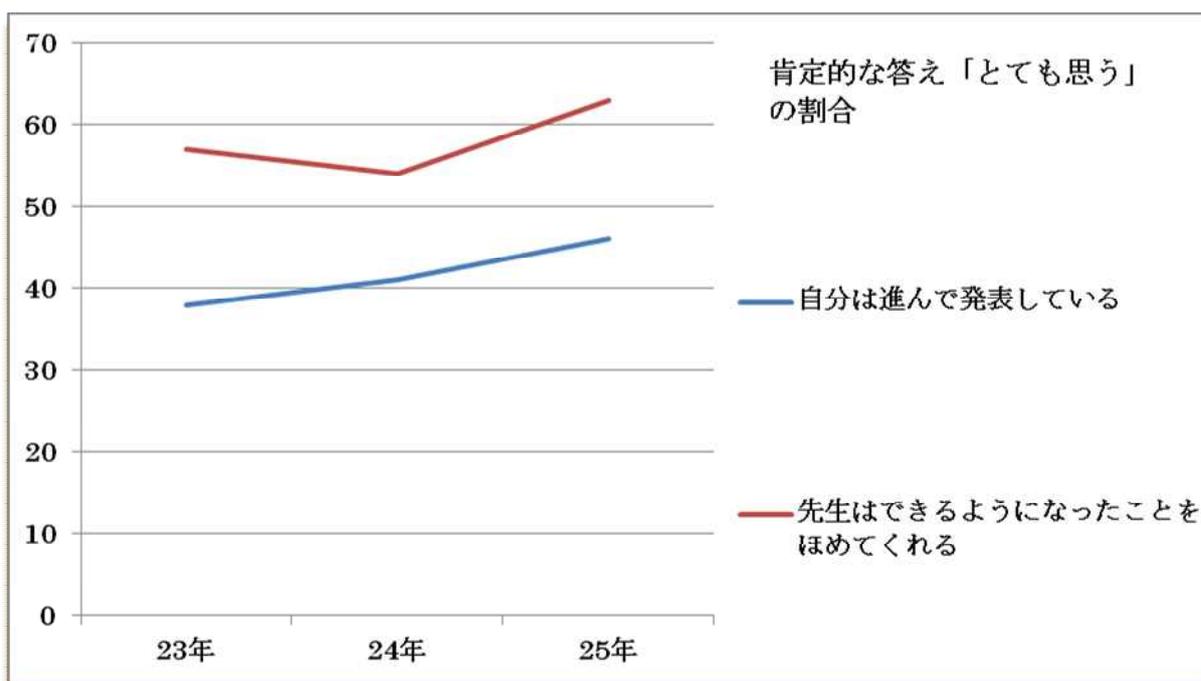


(効果的な取組)

下記の学習アンケートにおいては、肯定的な答え「とても思う」が徐々に増加している。「自分は進んで発表していますか」「先生はできるようになったことをほめてくれますか」などの質問においての児童の反応を真摯に受け止め、授業や日常生活の中で人権を意識し、共通実践「学び合い、認め合う学習を目指した授業づくり」に全職員で真剣に取り組むことができたからである。ネームプレートやペア・グループ学習を活用し、全員参加の授業づくりに励み、一人一人を少しでも、誉めよう、励まそうと働き続けてきた成果が、肯定的な答え「とても思う」の増加につながったものと考えられる。

(%)

学習アンケート



5. 実践事例についての評価

(取組についての評価及び評価する理由)

児童の変容から、成果として考えられることは、

- ・係や委員会の仕事に張り切って取り組む姿が見られる。
- ・失敗をおそれず、発表する姿が見られる。
- ・ネームプレートを活用してきた結果、以前より自分の考えを表出する姿が見られる。
- ・ペア・グループ学習を活用してきた結果、友達と仲良くかかわる姿が見られるようになり、友達の意見を認める聞き方が向上してきている。
- ・全員参加の分かりやすい授業づくりに取り組んできた結果が、基礎的・基本的な学力の定着につながった。

(現在、実施に当たって課題と感じていることは)

- ・主体的にかかわる力がまだ十分についているとは言えない。
- ・ペア・グループ学習で話し合ったことを全体の場で生かすまでに達していない。

そこで、今後は、次の2点を重点的に取り組んでいきたいと考える。

①コミュニケーション能力の育成

- ・相手の言おうとする内容を受け止める聞き方や分かりやすい話し方を身につけさせる。
- ・互いのよいところを認め合える場を設定する。

②自己表現できる場の設定

- ・ペア・グループ学習を積極的に活用し、伝え合う機会を多く設定する。
- ・自分の考えの変容を表現するためのネームプレートの活用の仕方について検討する。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

かほく市立七塚小学校

①児童が安心して過ごせる学校・学級を目指した環境づくり②互いの良さを認め合える人間関係づくり③一人一人が大切にされる学習活動づくりの三つの視点からのアプローチにより、人権尊重の視点に立った学校づくりを行っている。

特に、学習活動づくりでは生徒指導の三機能を人権教育の視点として活用し、「自己決定ができる場」「参加している意識がもてる場」「相手の立場に立って聞き合う場」を意識した授業づくりを行い、自己肯定感を高め、他とうまくかかわることのできる児童を育成している。

「自分にはよいところがある」「学校で友達に会うのは楽しい」「自分の考えを発表する機会を与えられている」とアンケートで答える児童が増えていることは、授業や日常生活の中で常に人権を意識し、「学び合い、認め合う学習を目指した授業づくり」に学校全体で取り組んできたことの成果である。